

# 医家美術展 新会場で開く

## 油彩・墨彩・素描・工芸：40人から63点



最終日の午後、2階フロアで開かれた懇親会の一場面

第57回日本医家美術展は、10年ぶりに新会場「ギャラリー悠玄」に移し、7月3日(金)～5日(日)まで開かれた。会場は地階・2階までの3フロアに、40人から寄せられた計63点を展示。足を運ばれた出展者やお客様から「落ち着いた雰囲気」と好評だった。

ことは絵画が主体で、工芸は野田貞子先生の力作、ステンドグラス、15世紀の天使達「1点のみ。例年、焼き物を出される秋葉琢磨・則子夫妻は、今回は水墨画。また長い間、能面を出されていた中村純一郎先生はお休みでした。

しかし、出展者の創作意欲は健在で、創造力に富んだテーマ、技術的な挑戦が随所に見られ、来年も大いに期待できます。最終日に開かれた恒例の懇親会でもそれぞれが自作について述べるとともに今後の抱負も語られました。

作品の一覧表は次ページにあります。作品紹介は1人1点ですが、カラーで掲載しました。ホームページには全作品を

紹介してありますので、「ご覧下さい。」  
また、本誌に「自作について」や「絵画と自分」といった《美術随想》も寄せていただきました。

会場探しから終了まで  
搬入出などに課題残る

美術委員3名により経費削減を考えて会場を変えることが去年考えられました。銀座以外の土地も考慮されましたが、「やはり銀座で」という会員の意見が約半分でしたので、グループ展の行なえる会場探しを始めました。銀座の「ササ」を歩き回り、いつものように多くの会員が出席できる場所を探しました。画廊も勝ち組負け組があるようで、いいところは顧客も多いが、そうでないところはまったくはやっていない。大きな画廊はあることはありますが大半わかりにくい、高い、また銀座のはずれにあるなど、経費を使うには問題があることがわかりました。むしろ今までのメルサは勝ち組の一つで

あつたとわかりました。しかし今までの会場は1週間単位で借りなければならず、会場モビルの上の方で、フリーで入ってくる方はまずいけません。今回の会場の悠玄は地下、1階、2階とわかれてはいませんが、道路に面し展示スペースも広く3日なり4日なりの期間でも借りられ、経費も抑えることができます。また帝国ホテルにも近く泰明小学校向い側という立地条件の良さも気に入りました。ところが予約がいっぱいで無理かとあきらめ他を検討していましたが、運よくキャンセルがでて、ようやく会場と日時が決まりました。事務方はこの日にむけて、作品募集を会員に呼びかけます。長年続いたきた名譽あるこの日本医家美術展の存続をかけ、予算を決めたり、招待用DMはがきを作成したり、事務方は総会の準備もあり忙しい日々が続きました。

いざ搬入。私も自分のギャラリーを持っていきますので搬入搬出によく立ち会います。グループ展の場合多くの作家が立

会いそれぞれ力仕事や配置を考えますが当会は全国組織のため、事務方しか展示に立ち会えません。今回事務方は若手アルバイトを数名確保し力仕事のお手伝いを頼みましたが、かなりの時間を費やしました。本来ならもっと時間のかかるころこの会場の係員2人が、展示の仕方を心得ており、なんとか6時ごろ展示を終えました。会場に来られることのできる先生方がいらっしやいましたら、絵の配置などご指示いただければ幸いです。

さて、受付係は金土日を手分けして担当しました。私も土曜日の4時ごろから1人で受付をする経験をさせていただきました。通りがかりの美大関係のグループや会員の方々と接することができましたが、日ごろ「ありがとございませぬ」などと言ったことがありますので、お帰りの際に「どうも」くらいしか言えません。またある会員の方の絵が不手際であまりにも場所が悪いところにあつたに気付き、土曜日からよく目

立つところに配置させていただきました。日曜日は美術展の懇親会が12時から、総会(部長会)が1時からということで大勢の方が来られ作品をご覧になりました。懇親会には前日に酒田市から夫人ともども見えられた海野泉先生が、昨年に続いて出られました。広島の“作家”を代表して江川政昭先生、美術部委員の白矢勝一と安彦洋一郎先生、秋葉夫妻、飯田収、須賀功、唐澤信安、鈴木博、柴崎晃の諸先生が参加されました。会場が小さいため膝を突き合わせての懇親会。顔を寄せて話しあう楽しさ、親密感もぐっと増します。今後もできるだけ懇親会に参加していただければと思います。

さて懇親会も終わり3時過ぎから搬出となりますが、運送業者が数社で絵を取りに来る時間がバラバラ。なんと搬出に4時間もかかってしまいました。次回から事務方に帰りの搬出は一任する方法がよいと思います。皆様のご協力をお願いします。